風化する記憶

ジェット機墜落事故

慰霊の日となる６月23日、戦没者の御霊を慰め、世界の恒久平和を祈るため県内各地で追悼式が行われる。時代の流れとともに風化していく戦争の悲惨さ、怖さを次の世代に繋ぐための大切な日として位置づけられている。うるま市立宮森小学校では、もう一つ風化させてはいけない出来事がある。それは、1959年に発生したジェット機の墜落事故である。被害者や遺族の方々にとっては忘れてしまいたい「記憶」。しかし、語り継がなければいけない「事実」が、米国統治下に置かれた49年前の沖縄で起こった。２年後の1961年、具志川村（当時）川崎の民家に同型のジェット機が墜落。尊い命が失われる大惨事が繰り返された。

宮森小学校では毎年６月30日に慰霊祭が行われており、市内の小学生や遺族、当時の生徒、卒業生等が参拝に訪れている。